

東日本大震災の避難所で大人を励ますために新聞を手作りした
編集部の子どもたちを国連機関が称賛

「ファイト新聞」ユネスコ顕彰企画実施報告書

<http://fight-shimbun.org>

2012.7.20

日時： 2012年4月2日（月）
場所： 国連教育科学文化機関（UNESCO）パリ本部
主催： 一般社団法人 ファイト新聞社
「ファイト新聞」A₂O！実行委員会

2012年4月「ファイト新聞」ユネスコ顕彰企画実施報告書

【団体・事業名等】

団体名	一般社団法人 ファイト新聞社 「ファイト新聞」A.O!実行委員会
共同主催	NPO法人 復興博
日時	2012年4月2日(月)午前10時
場所	国連教育科学文化機関(UNESCO)パリ本部
参加者	吉田理紗、小山里子、小山奏子、吉田麻尋 「ファイト新聞」編集部員4名
主催	一般社団法人 ファイト新聞社 「ファイト新聞」A.O!実行委員会
特別協力	城之内ミサ(ユネスコ平和芸術家)
共催	NPO法人 復興博
特別協賛	東京恵比寿ロータリークラブ(国際ロータリー第2750地区)
協賛	味の素、パークホテル東京、眞宗寺
協力	JALグループ、パナソニック、外務省、在フランス日本国大使館、国際交流基金、 日本文化会館(パリ)、ALRISHA、虎の門マネジメント、ハートツリー、 アメニティコクーン、MOデザイン、

【総実施費用・実施期間・実施会場】

総実施費用	1,295,742万円
実施期間	2012年3月31日～4月10日(パリ渡航含む)
実施場所	国連教育科学文化機関(UNESCO)パリ本部

【組織等の状況】

携わったスタッフ数	16名(うち、ボランティア16名)
-----------	-------------------

【実績】

(1)目的

東日本大震災後、宮城県気仙沼市の気仙沼小学校に設けられた避難所で、小学生の女の子呼び掛けで壁新聞「ファイト新聞」が創刊された。

初代編集長の吉田理紗(当時小学1年)は編集方針として「避難所のみんなを元気にしたい」。知人の小学生の女の子ばかり4人で立ち上げた壁新聞は、第2代編集長の小山里子(同3年)ら10人あまりの編集部の子どもたちに引き継がれ、50号までほぼ毎日手作りされた。

津波で家族や知人を亡くし、家を流され、職場を失った被災者の人々の心を和ませ、「被災地の希望」となった子どもたちを国連機関であるユネスコが褒め称えることで、被災地に慰めと励ましのメッセージを送る。

(2)概要

ファイト新聞への称賛の声が高まる中、2012年4月2日に国連教育科学文化機関(ユネスコ)のパリ本部に編集部の子どもたちが訪ね、ユネスコ文化事務局長フランチェスコ・バンダリン氏(前世界遺産センター長)から「ジュニアジャーナリスト」として顕彰を受ける。

同時に、ファイト新聞を精巧に復元したレプリカ(複製)を寄贈し、同時に被災者を代表して、これまでの国際支援に対して感謝の気持ちを伝えるとともに、復興の思いを届ける。

さらに、フランスの学校を訪問し、日仏子ども新聞交流会を開催する。

(3)実施体制

■担当編成

主催責任者	: 小山武(一般社団法人ファイト新聞社)、吉田博文(同)
総括	: 松田典子(同上)
参加児童・生徒	: 吉田理紗(ファイト新聞編集部)、小山里子(同)、小山奏子(同)、吉田麻尋(同)
特別協力	: 城之ミサ(ユネスコ平和芸術家、音楽家)
参加サポート	: 小山勝江、吉田智子
企画・報告書作成	: 小池真一(NPO法人復興博)
衣装協力	: 針生拓郎(有限会社セレスト)
運営協力	: 大木正文(MOデザイン)
広報協力	: 米須菊代(ジャーナリスト)、井上康太郎(同)
壮行会協力	: 武山建一(イーシンコミュニケーション)、黒澤美穂子(パークホテル東京)

■準備過程

2011	7	「東北復興博@東京 for 2021」実施、ファイト新聞の一部を写真にて紹介
	9	ファイト新聞のレプリカ(複製)制作をセイコーエプソンに依頼
	11	セイコーエプソン本社にてレプリカお披露目会実施
	12	ファイト新聞のレプリカを気仙沼にて引き渡し
2012	2	ユネスコ本部(パリ)での顕彰決定
	3	ユネスコ本部から子どもたち宛の招待状到着
	3	東京恵比寿ロータリークラブ(国際ロータリー第2750地区)による寄付決定
		外務省、在フランス・日本国大使館、国際協力基金の協力決定
		JALグループによる渡航補助決定。味の素、真宗寺の協賛決定
		パークホテル東京のCSRによる壮行会開催
		ALRISHAによる子どもたちのユニホーム完成、パナソニックによるビデオカメラ貸与

■パリ渡航の実施体制

スタッフ数 : 参加児童・生徒計 4 人(吉田理紗、小山里子、小山奏子、吉田麻尋)
小山代表理事、吉田副理事、松田理事(統括)が引率
※小山勝江、吉田智子がサポートとして帯同

■健康・安全対策

- ・参加児童・生徒の不測のトラブルに即応可能なサポート体制をパリおよび東京に確保
- ・国および協力企業との事前協議、情報共有の徹底

(4)実施実績

■ユネスコ顕彰関連

- 3/31 ユネスコ顕彰直前の記者会見を東京・虎ノ門で開催 (※共同通信、河北新報、TBSなど取材)
気仙沼出身者による壮行会開催
- 4/2 ユネスコ本部 フランチェスコ・バンダリン文化局長と面会、「ジュニアジャーナリスト」として顕彰
(※共同通信、読売新聞など取材)
ユネスコ日本政府代表部表敬訪問、木曾功大使と懇談
- 4/3 在フランス日本国大使館表敬訪問、小松一郎大使と懇談
ジャンヌダルク学園で子ども新聞交流会、今後子ども新聞交流を行うことで合意(※共同通信取材)
日本文化会館(パリ)表敬訪問、竹内佐和子館長と懇談。ファイト新聞レプリカ第 1~10 号寄贈
- 4/5 外務省表敬訪問
- 4/9 気仙沼市役所表敬訪問、菅原茂市長と懇談 (※河北新報、読売新聞、毎日新聞社、NHKなど取材)

(5)実施効果

ユネスコ本部での顕彰は、フランチェスコ・バンダリン文化局長(前世界遺産センター長)から、ファイト新聞編集部代表の子どもたちが「未来への希望」と褒め称えられ、「ジュニアジャーナリスト」として顕彰された。

国連機関により被災地の子ども復興新聞が初めて取り上げられ、世界に向けて称揚された事実はマスメディアを通じて国内外で報じられ、ファイト新聞の偉業の意義を多くの人々があらためて認識する機会になった。

特に学校現場で教材として取り上げられるなど、子ども新聞づくりの機運を盛り上げることに貢献できた。

また、ユネスコ本部ならびに日本政府諸機関、フランスの学校などの訪問を通じて、ファイト新聞の子どもたちが被災者を代表して東日本大震災後の国際社会の復旧・復興支援に対し感謝の気持ちと復興の思いをメッセージとして発信し、復興に関する国際交流・相互支援の重要性を多くの人々と共有する機会になり得たといえる。

※各メディアの取り扱い詳細は別紙参照

【事業の収支結果】

1 収入の部

収入			
項目	予算額(円)	決算額(円)	備考
(1)寄付	1,500,000	1,838,000	余剰金(338,000)
(2)本事業の事業収入	0	0	
(3)その他	0	0	
(合計)収入合計	1,500,000	1,838,000	余剰金(338,000円)は次回企画に繰り越し

2 支出の部

支出			
項目	予算額(円)	決算額(円)	備考
(1)旅費交通費	1,400,000	1,133,490	編集部員4人およびファイト新聞社理事3人のパリ渡航費 ※JALグループが渡航費の大幅割引、パリ宿泊費を全額負担
(2)会議費			
(3)人件費			
(4)委託外注費	20,000	105,000	ファイト新聞記者章(400個)製作 ※ハートツリーに支払
(5)印刷費			
(6)広告宣伝費	10,000	6,230	HP開設費※ドメイン取得、サーバー契約
(7)物品購入費	30,000	20,077	パネル代(ユネスコ)、名刺作成代(7名)
(8)通信費	30,000	26,690	電話連絡および打ち合わせ費用
(9)雑費	10,000	4,255	子供たちのユニフォーム宅配料、掲載紙購入代、振り込み手数料
(合計)支出合計	1,500,000	1,295,742	余剰金(204,258円)は次回企画に繰り越し

【自己評価】

(1) 実績の自己評価について

(目標の達成度、地域・社会への貢献、成果の広がり等)

本企画の目的については、おおむね達成できた。

国連機関のユネスコ本部に顕彰され、さらに日本の政府機関、文化施設などでも称揚され、応援を受けることで、被災児童による子ども復興新聞＝ファイト新聞の意義を広く訴求でき、新聞をはじめテレビ番組などで取り上げられた。

子ども新聞の国際交流の礎を築くことができた。

マスメディア数社が各媒体で取り上げたが、特にテレビや大手在京新聞の露出を十全なものとする体制づくりが必要だったと考えられる。

(2) 計画と実績の差について

(実施体制、事業計画、収支計画、日程等)

- ・スタッフの配置の不備で、後援企業の協力要請や広報などを効果的に実施することができなかつたところがある。
- ・ホームページなどの制作に必要な日数を十分に確保することができなかつた。
- ・パリ渡航中の編集部員について企画協力者にタイムリーに告知することができなかつた。
- ・パリ滞在中にファイト新聞レプリカ展を同時開催するなどの関連企画を実現できなかつた。

(3) 今後の取り組みについて

(事業を実施したことによる成果、経験をもとにした計画等)

広報のための十全のスケジュールリング、が枢要である。

ファンドレイジングを含め綿密な計画の準備と広報活動によってさらなる社会的訴求が可能になり、関連諸機関、企業、団体および個人の協力要請も円滑になると期待される。

東日本大震災の記憶が人々から日々風化していく中で、「大人たちを元気にする」との編集方針の下、日刊で復旧・復興について子どもたちが素直な視点でとらえ、伝えたファイト新聞のことを多くの人に知ってもらう機会を多くつくる必要がある。

ファイト新聞活動の継続・増進を図り、日本国内だけでなく海外との子ども新聞交流の機会を拡充し、その意義について賛同を得るような具体的活動を持続的に推し進めることが求められる。

「ファイト新聞」を顕彰

【パリ共同】東日本大震災後、宮城県気仙沼市で壁新聞「ファイト新聞」を手作りした小中学生らが2日、パリの国連教育科学文化機関（ユネスコ）本部に招かれ、フランチェスコ・バンダリン文化局長から「皆さんは未来への光。その勇気をたたえます」と顕彰された一写真。

初代編集長の吉田理紗さん(8)は「今まで私たちを助けてくれた方々にありがとうございます」と言っています」とあいさつした。



吉田さんと一緒に本部を訪れたのは、第2代編集長の小山里子さん(10)と姉で編集部員の奏子さん(13)、吉田さんの妹麻尋ちゃん(4)。小山さんは「たくさんの人たちにファイト新聞を読んでもらってとてもうれしいです」と話し、奏子さんも「これから復興へ向けて頑張りたい。ご支援をお願いします」と呼び掛けた。

子どもたちからファイト新聞の複製と、宮城県の間伐材製の記者章を贈られたバンダリン局長は「被災者を今も世界中の人々が心配しています。今後も皆さんを応援します」とエールを送った。

今回の顕彰は、ユネスコ平和芸術家で音楽家の城之内ミサさんのコーディネートで実現した。

今回の顕彰は、ユネスコ平和芸術家で音楽家の城之内ミサさんのコーディネートで実現した。

未来への光 勇気たたえる

【パリ共同】東日本大震災後、気仙沼市で壁新聞「ファイト新聞」を手作りした小中学生らが2日、パリの国連教育科学文化機関（ユネスコ）本部に招かれ、フランチェスコ・バンダリン文化局長から「皆さんは未来への光。その勇気をたたえます」と顕彰された。

初代編集長の吉田理紗さん(8)は「今まで私たちを助けてくれた方々にありがとうございます」と言っています」とあいさつした。

吉田さんと一緒に本部を

「ファイト新聞」顕彰 気仙沼の小中学生招く

ユネスコ

訪れたのは、第2代編集長の小山里子さん(10)と姉で編集部員の奏子さん(13)、吉田さんの妹麻尋ちゃん(4)。小山さんは「たくさんの人たちにファイト新聞を読んでもらってとてもうれしいです」と話し、奏子さんも「これから復興へ向けて頑張りたい。ご支援をお願いします」と呼び掛けた。

子どもたちからファイト新聞の複製と、宮城県の間伐材製の記者章を贈られたバンダリン局長は「被災者を今も世界中の人々が心配しています。今後も皆さんを応援します」とエールを送った。

今回の顕彰は、ユネスコ平和芸術家で音楽家の城之内ミサさんのコーディネートで実現した。



ユネスコ本部で顕彰された吉田さん(前列右)と妹の麻尋ちゃん(手前)、小山さん(中央)と姉の奏子さん(後列左)。後方はバンダリン局長と城之内さん(右)

手作り新聞交換 日仏小中生交流

「ファイト新聞」編集児童

【パリ共同】東日本大震災

後、宮城県気仙沼市で壁新聞「ファイト新聞」を手作りし、国連教育科学文化機関（ユネスコ）に顕彰された小中学生が3日、パリ郊外のジャンヌダルク学園を訪問し、交流会



交流会に参加する「ファイト新聞」編集部のメンバーとジャンヌダルク学園の子どもたち。3日、パリ郊外共同

に参加した。初代編集長の小学3年吉田理紗さん(8)ら編集部員4人は学園の児童と新聞を交換し「新聞を通して交流をしていきたいです」と呼び掛けた。

吉田さんと第2代編集長の小学5年小山里子さん(10)、小山さんの姉で中学2年奏子さんは津波で自宅を流された後、身を寄せた避難所で被災者を励ますために「ファイト新聞」を創刊した経緯を説明。同学園の児童に手渡した特別編集の「学校パリの号」には日の丸とフランス国旗を描き「今、ふつうに生活できているのも支援してくださっている方々のおかげです」などと記した。

交流会は日本大使館の企画で実現。地元の子もたちからは「日本では正座してご飯を食べるのか」などの素朴な質問が相次ぎ、アニメや漫画の話題で盛り上がった。

今後は3カ月に1回、近況を報告する新聞交流を行う。吉田さんは「これからもみんなを明るくする新聞づくりを頑張ります」と笑顔で話した。

信濃毎日新聞 12.4/4 朝刊

ユネスコが「ファイト新聞」顕彰 子どもたちはドキドキ

東日本大震災後、宮城県気仙沼市で壁新聞「ファイト新聞」を手作りした子どもたちが30日、パリの国連教育科学文化機関(ユネスコ)本部で4月2日に顕彰されるのを前に東京都内で記者会見し、初代編集長の小学2年吉田理紗さん(8)が「ユネスコに招かれることドキドキしています」と話した。



ユネスコでの顕彰の前に記者会見した吉田理紗さん(左から2人目)ら。30日、東京都港区

ユネスコ本部に招かれるのは創刊メンバーのうち3人。吉田さんは「避難所の人たちに元気を出してほしいと新聞を書きました」と笑顔を見せ、小学4年の小山里子さん(10)は「たくさんの人たちの応援のおかげです」と落ち着いた様子で話した。会見の後、同市出身者による壮行会も開かれた。

2012/03/30 22:09 【共同通信】

東京のRC

ファイト新聞を支援

被災地の子ども活動顕彰

国連教育科学文化機関 金の贈呈式が東京都内で
(ユネスコ)が、東日本 行われた。

大震災の避難所の壁新聞 「ファイト新聞」を手作
りした宮城県気仙沼市の 子どもたちを顕彰したの
を受け、女優の司葉子さ が所属する東京恵比寿
ロータリークラブ(RC) が同新聞の活動支援を決
定、司さんらによる支援

長の小学5年小山里子さ
んらが「ジュニアジャー
ナリスト」としてたたえ
られた経緯を説明し「こ
れからも復興のことを新
聞にしていきたいと思います。応援、
ありがとうございます」
と話した。
支援金は吉田さんらの
パリ渡航費などに充てら
れる。ファ
イト新聞は
今後、フラ
ンスを含め
国際交流に
も力を入れ
たいとして
いる。

司葉子さん(左)とファイト新聞の子どもたち
東京都内



支援金は吉田さんらの
パリ渡航費などに充てら
れる。ファ
イト新聞は
今後、フラ
ンスを含め
国際交流に
も力を入れ
たいとして
いる。

「ファイト新聞」を支援

東京のロータリークラブ

国連教育科学文化機関 (ユネスコ)が、東日本大
震災の避難所の壁新聞「フ
ァイト新聞」を手作りした
宮城県気仙沼市の子どもた
ちを顕彰したのを受け、女
優の司葉子さんが所属する
東京恵比寿ロータリークラ
ブが同新聞の活動支援を決

定、司さんらによる支援金
の贈呈式が東京都内で行わ
れた。
司さんが「被災した人た
ちを励まそうと新聞を作っ
たその思いがすばらしい。
日本人として誇りに思いま
す」と子どもたちを称賛。
パリのユネスコ本部での顕

彰に臨んだ初代編集長の小
学3年吉田理紗さんと第2
代編集長の小学5年小山里
子さんが「ジュニアジャー
ナリスト」としてたたえ
られた経緯を説明し「これ
からも復興のことを新聞に
していきたいと思います。応援、あり
がとうございます」と話し
た。
支援金は吉田さんらのパ
リ渡航費などに充てられ
る。



司葉子さん(左)とファイト新聞の
子どもたち=東京都内